

# 市政ニュース

その震災を決して忘れず、生かし、備えるために

## 震災総合防災訓練を実施

本市に甚大な被害をもたらした大正14年の北但大震災を教訓に、地震災害に備え、災害時に迅速かつ適切な応急対策が取れるよう、8月31日、円山川運動公園(玉湖)で震災総合防災訓練を実施しました。

訓練は、震度6強の大地震が発生し、市街地で甚大な被害が続発、火災も発生し、津波の恐れもあるという被害状況を想定しました。

当日は、市のほか国県関係機関や各種団体など26団体、約700人が参加。地元中筋地区では、住民のほか、小学校や幼稚園も参加しました。



バケツリレーや消火器での消火、負傷者の搬送など20以上の訓練を実施。自衛隊による豚汁とおにぎりの炊き出しも行われました。

今回新たに実施した訓練は、消防本部や陸上自衛隊、兵庫県警察によるビル倒壊事故



▲子どもたちは避難訓練に参加

救助救出訓練、兵庫県消防防災航空隊のヘリコプターによる孤立集落空中消火訓練、市と震災学校支援チームEARTHによる避難所開設・運営訓練などです。

中貝市長は「災害時、人は訓練した以上のことはできない。だから備えが必要ですよ」と参加者に呼び掛けました。

また、連合消防団長の吉岡忠次朗さんと中筋地区区長会会長の今井悟さんは、防災、災害時の適切な対応ができるよう真剣に取り組むと決意を語りました。

## 「地場産業を守る!かばん縫製者を育成」 靴縫製者トレーニングセンターが開校

9月2日、かばん縫製者を育成する「靴縫製者トレーニングセンター」(元町)の開校式が開催され、第1期受講生10人が出席しました。

靴縫製者育成組合代表・木和智成さんは「ものづくりの喜びを知り、誇りを持てる職人を目指してください」と、激励しました。また、同組合から受講生全員に、かばん縫製に使うはさみが贈呈されました。



▲かばんの縫製を熱心に学ぶ受講生

開校式終了後には、早速、ミシンを使った実習が始まりました。

## チャレンジデー2013 「広報アイデア賞(笹川スポーツ財団特別賞)」受賞

市全域で、5月29日に行った「チャレンジデー2013」で、対戦相手の秋田県横手市とともに、ユニークな方法でチャレンジデーの周知広報を行ったという理由で、笹川スポーツ財団特別賞「広報アイデア賞」を獲得しました。

対戦相手の秋田県横手市と、互いの地元FMラジオ局の番組で電話出演をしたり、負けた豊岡市が勝った横手市の市



▲笹川スポーツ財団から、盾を贈呈

歌をラジオで流すなど、積極的に対戦相手と交流を図り、市民にチャレンジデーを周知したことが認められました。

### 「主な市政の動き」

#### 【8月】

18日・新庁舎への事務所移転完了

19日・市役所新庁舎食堂開店記念式典

22日・韓国・東川初等学校訪問報告会

26日・新庁舎開庁記念「豊岡市夏の美術館」(9月6日)

28日・南極教室ライブ2013

29日・出石学校給食センター完成式典

30日・新議場オープニングセレモニー

・市議会定例会開会(9月26日)

#### 【9月】

31日・震災総合防災訓練

1日・新庁舎市民見学会

2日・本人通知制度スタート  
・市内の最高齢者および最高齢夫婦を訪問

4日・豊岡市災害警戒本部、城崎・竹野地域警戒本部設置(同日廃止)

7日・豊岡市環境審議会  
・日本女子ソフトボール1部リーグ豊岡大会(8日)

8日・南極講演会

〜平成4年から続いている国際交流〜

韓国・東川初等学校訪問報告会を開催

8月22日、市内の小学6年生19人が、7月30日から8月2日まで韓国慶州キョンジュにある東川初等学校を訪問した報告会を開催しました。

訪問先の学校での交流会では、本市児童は事前に練習を重ねた「よさこいソーラン」の踊りやリコーダー演奏、詩吟、空手を披露し、韓国の児童による楽器演奏や踊りを鑑賞し

ました。

また、ホームステイを体験し、韓国の家庭料理を味わうなど、ホストファミリーとの親交を深めました。

報告会では、参加児童から「もつともつと外国のことを知りたいと思った」「目標だった韓国の友達を作ることが達成できた」などの感想が出ていました。



▲東川初等学校児童と一緒に大縄跳びを楽しみました

〜「マナカナ」の愛称で有名な三倉菜奈さんが本市の食を味わう〜  
「ぐるっと食の旅 キッチンがゆく」の収録が行われました

9月8日、俳優で歌手の三倉菜奈さんが、「ぐるっと食の旅 キッチンがゆく」(NHK・BSプレミアム)の収録で来訪し、本市の旬の食材と料理に出会いました。

八代地区(日高地域)で自家用栽培している「八代オクラ」は、直径は3センチメートル、長さが約15センチメートル。三倉さんに「オクラのしょうゆパターの炒め物」を味わっていただきました。

次は竹野漁港で「赤イカ」を

紹介。大きいものでは、体長1メートル、重さ20キログラムもある赤イカの料理は竹野の新名物です。

「赤イカは、1週間ぐらい冷凍し、解凍すると、甘味が増す」と、よりおいしく食べるコツも伝えました。

最後にオクラとイカの両方を使った創作料理「赤イカと八代オクラの冷製コンソメイカスミのロワイヤル仕立て」が、三倉さんたちに振る舞われました。「収録当日の朝、コウノトリと



▲三倉さんと「八代オクラ」生産者の吉岡 亮さん

中貝市長の徒然日記 ⑦

祝！新庁舎完成

町の中心に美しい景観が出現しました。新庁舎です。リニューアルされた旧本庁舎が風格をもつて立っています。建設計画の策定にあたって、旧本庁舎を残すか否かが議論になりました。「あんな古ぼけた建物は壊してしまえ」という意見もありました。しかし、

旧本庁舎は、1925年の

北但大震災からの復興のシンボルとして建てられました。当時の人々が災害に対しどのように立ち向かい、どのように立ち上がってきたのかを体現している建物です。台風23号災害の折には、復旧のために連日、夜通しこうこうと電気をつけて働き続け、人々を励まし続けた施設でもありません。歴史は、引き継がなければなりません。

2階は議場として活用し、1階と3階は市民利用に供することにしました。その部分を、豊岡藩主であった京極家のご理解もいただいて、豊岡

藩の藩校にちなんで「豊岡稽古堂」と名づけました。稽古とは、古に学ぶという意味です。

庁舎全体は、古い建物と新しい建物の絶妙なバランスの上に成り立っています。壊しては作り、壊しては作るというやり方で記憶喪失のようなまちを創るのではなく、受け継いできた大切なものを守り、育て、引き継ぐという豊岡の生き様を象徴的に示しているように思います。

庁舎は、本来市民の皆さまのものであります。その庁舎に少しでも親しんでいただこうと、庁舎を会場にして「豊岡市夏美術館」という展覧会を行いました。職員が真剣に働いている(はずの)姿を横目でチェックしながら、各階の廊下に展示された絵や書を楽しんでいただきました。秋、冬、春にも予定しています。お腹が空かれたら、食堂にどうぞ。こちらのほうは、障がいのある方に少しでも働く場を提供しようと、出石精和園の皆さまに運営していただいています。おいしいですよ。